

## 9月の植物

### オオマルバノテンニンソウ (シソ科)

別名 ツクシミカエリソウ

学名 : *Comanthosphace stellipila* (Miq.) S.Moore var. *radicans* (Honda) Yonek.

秋は多くのシソ科の植物が野山や水辺を彩る。シソ科の植物は「葉のつき方は対生、茎は四角形、花は唇形、葉に腺点がありちぎると芳香がある。」と先輩に教えていただいた。その教えは身近なシソに見事に当てはまり驚いた記憶がある。

鹿島市平谷での観察会で、参加された女性が大きな葉をもち小花を穂状に沢山つけた植物を指さし、「これ何？」と質問された。すぐさま、K 幹事が「あなたが振り向いて見てしまうような美しい花です。ツクシミカエリソウです。」と教えられていた。以前は「ツクシミカエリソウ」と言っていたが、何時からかオオマルバノテンニンソウとなっていた。

オオマルバノテンニンソウは深山林下の谷沿いなどに群生する多年草で、茎は四角形、高さ 50～100 cmになる。葉は対生し、広い卵形で先が急に尖り、縁にはぎざぎざがある。枝先や茎の先に淡紅色の 8 mmほどの筒形で先が 4 つに割れる小花を穂状につけ、4 本の雄しべが花弁から長く突き出す。花期は 9-10 月。分布は中国地方から九州。佐賀県では多良岳、作礼山、天山などで見かける。

「テンニンソウは天人草で穂状の蕾が天人（この世の者でない）の顔に見え（写真囲み）、天人に見立てた」とあるので名前の由来は「大きな葉の丸い天人草」の意味と思われる。

（文責：井手 義信）



2020.9.28 (天山)

◎参考文献：日本維管束植物目録，山溪名前図鑑「野草の名前」，九州の花図鑑